平成30年度授業評価アンケート

1. 平成30年度　授業評価アンケート設問変更について

授業評価アンケートは、FD活動の一環として、前期・後期各期において、学生による授業評価アンケートを実施し、その結果を教員が授業の改善工夫に生かすとともに、所見を回答することにより、学生へのフィードバックを行なっています。

この取り組みは、学生による授業評価アンケートに示された学生からの率直な意見や評価を、個々の教員がまずは謙虚に受けとめるという姿勢が基本となり、その上で、より良い授業を目指して行こうという全教員の熱意によって支えられています。

平成30年度授業評価アンケートは、授業に対する改善や工夫を促す効果を更に高めるために設問項目など次の変更を行いました。

(1)授業の目的や到達目標に「教員の成績評価基準の説明」に関する設問を加え、学生自身の授業に対する姿勢では「授業における到達目標の理解」、事前事後学習（予習・復習）は学修時間ではなく「授業を理解するための学生自身の学修姿勢」に関する設問内容に変更。

(2)さらに、実験・実習科目にも予習・復習の設問を新設。予習・復習の設問の評定尺度は、学生の回答を明確にするために5段階から4段階（①十分に行った ②ある程度行った ③あまり行っていない ④全く行っていない）に変更。

(3)教員の授業に対する姿勢に関する設問は、「前回の授業の確認」「興味を高める手法」「教員と学生の相互性」「学生の理解度の確認」「効果的な手法」と項目を細分化して、各々の教員が重点としている授業の工夫度を確認できるように変更。

設問は次の通りです。

【講義・演習科目】

〈授業の目的や到達目標、成績評価についての確認〉	
設問1	授業のテーマや目的は、毎回の授業展開の中で明確であった。
設問2	教員は成績評価の基準を示した。
〈学生自身の授業に対する姿勢〉	
設問3	あなた自身、積極的に授業に参加した。
設問4	あなたは、この授業の目的や到達目標を明確に理解していた。
設問5	この授業を受けたことで知識や技術が得られた。
設問6	必要な準備（予習・復習）をして授業に臨んだ。
〈担当教員の授業に対する姿勢〉	
設問7	内容を解りやすく伝えようとする意欲・工夫などが感じられた
設問8	教員の話し方は明瞭でわかりやすかった。
設問9	授業の始めに、前回の学習内容の復習がなされている。
設問10	授業内容に関連する興味を高める手法（著書、論文、データの紹介など）があった。
設問11	この授業では、学生が授業に積極的に取り組めるような工夫がなされていた。
設問12	教員は学生の反応や理解を確認しながら授業を展開していた。
設問13	板書、視聴覚教材、配布資料などの使い方が効果的であった。
設問14	教員は私語の注意、入退室の注意など、授業環境のコントロールができていた。
設問15	授業の進度と分量は適切であった。
設問16	授業内容は各週の授業計画（項目・内容）に沿って進行していた。
設問17	この授業の開始時間、終了時間は適切だった。
〈総合評価〉	
設問18	総合的に評価して、満足できる授業であった。
〈自由記述〉 授業をさらに良くするための提案、担当教員に対してご意見などがあれば具体的に記入してください。	

【実験・実習科目】

〈授業の目的や到達日標、成績評価についての確認〉	
設問 1	授業のテーマや目的は、毎回の授業展開の中で明確であった。
設問 2	教員は成績評価の基準を示した。
〈学生自身の授業に対する姿勢〉	
設問 3	あなた自身、積極的に授業に参加した。
設問 4	あなたは、この授業の目的や到達目標を明確に理解していた。
設問 5	この授業を受けたことで知識や技術が得られた。
設問 6	必要な準備（予習・復習）をして授業に臨んだ。
設問 7	この授業を受けて、関連する分野（講義・演習科目）の理解または関心が深まった。
〈担当教員の授業に対する姿勢〉	
設問 8	内容を解りやすく伝えようとする意欲・工夫などが感じられた
設問 9	教員の説明･指示・デモンストレーションはわかりやすかった。
設問 10	授業の始めに、前回の学習内容の復習がなされている。
設問 11	授業内容に関連する興味を高める手法（著書、論文、データの紹介など）があった。
設問 12	この授業では、学生が授業に積極的に取り組めるような工夫がなされていた。
設問 13	教員は学生の反応や理解を確認しながら授業を展開していた。
設問 14	板書、視聴覚教材、配布資料などの使い方が効果的であった。
設問 15	教員は私語の注意、入退室の注意など、授業環境のコントロールができていた。
設問 16	授業の進度と分量は適切であった。
設問 17	授業内容は各週の授業計画（項目・内容）に沿って進行していた。
設問 18	この授業の開始時間、終了時間は適切だった。
設問 19	実験・実習がスムーズに進められるよう、材料や器具が十分準備されていた。
〈総合評価〉	
設問 20	総合的に評価して、満足できる授業であった。
〈自由記述〉 授業をさらに良くするための提案、担当教員に対してご意見などがあれば具体的に記入してください。	

2. 授業評価アンケート実施状況

【前期】

(1) 実施期間：2018 年 7 月 9 日（月）～7 月 28 日（土）

(2) 調査方式：紙方式（マークシート）

講義・演習科目　設問 18 問（選択式）、自由記述 1 問　（P60　参照）

実験・実習科目　設問 20 問（選択式）、自由記述 1 問　（P61　参照）

(3) 実施対象科目：全科目（ゼミナール、総合演習、卒業研究・制作を除く）

講義・演習　健康栄養学部 101 科目　（管理栄養学科 50 科目　食品学科 51 科目）

実験・実習　健康栄養学部 27 科目　（管理栄養学科 12 科目　食品学科 15 科目）

(4) 回答率：

講義・演習　履修者数：6,322　回答者数：5,521　回答率：87.33%

管理栄養学科：3,357　回答者数：2,967　回答率：88.38%

食品学科　：2,965　回答者数：2,554　回答率：86.14%

実験・実習　履修者数：1,826　回答者数：1,672　回答率：91.57%

管理栄養学科：　897　回答者数：　838　回答率：93.42%

食品学科　：　929　回答者数：　834　回答率：89.77%

【後期】

(1) 実施期間：2019 年 1 月 7 日（月）～2 月 2 日（土）

(2) 調査方式：紙方式（マークシート）

講義・演習科目　設問 18 問（選択式）、自由記述 1 問　（P60　参照）

実験・実習科目　設問 20 問（選択式）、自由記述 1 問　（P61　参照）

(3) 実施対象科目：全科目（ゼミナール、総合演習、卒業研究・制作を除く）

講義・演習　健康栄養学部 87 科目　（管理栄養学科 44 科目　食品学科 43 科目）

実験・実習　健康栄養学部 27 科目　（管理栄養学科 17 科目　食品学科 13 科目）

(4) 回答率：

講義・演習　履修者数：4,428　回答者数：3,642　回答率：82.25%

管理栄養学科：2,178　回答者数：1,818　回答率：83.47%

食品学科　　：2,250　回答者数：1,824　回答率：81.07%

実験・実習　履修者数：2,029　回答者数：1,798　回答率：88.62%

管理栄養学科：1,210　回答者数：1,090　回答率：90.08%

食品学科　　：　819　回答者数：　708　回答率：86.45%

3. 授業評価アンケート結果のフィードバック

アンケート結果は、授業担当教員に配付され、授業担当教員はアンケート結果に対する確認と所見を作成しています。

学生へのフィードバックは、授業担当教員の結果及び授業担当教員が作成した所見を学内ファイルサーバから閲覧できるように公表しています。

4. 学生の取組、教員の取組、授業の成果、総合評価との関係

①評定尺度と集計数値

各設問の評定尺度は、5 段階〔強く思う、そう思う、どちらとも言えない、そう思わない、全く思わない〕とし、集計数値は、「強く思う」を 5、「そう思う」を 4、「どちらとも言えない」を 3、「そう思わない」を 2、「全く思わない」を 1 とした。

ただし、設問 6『必要な準備（予習・復習）をして授業に臨んだ。』の評定尺度は、4 段階〔十分行った、ある程度行った、あまり行っていない、全く行っていない〕であり、集計数値は「十分行った」を 5、「ある程度行った」を 4、「あまり行っていない」を 2、「全く行っていない」を 1 とした。

②評定尺度平均値の算出は、各設問での無回答及び読み取り不可回答は、母数から除いた。

③集計結果

○学生の取組分野、教員の取組分野、授業の成果分野、総合評価との関係は、図 3-1～図 3-8 の通りであった。

・講義・演習科目は、学生の取組分野は「設問 4、6 の平均値」、教員の取組分野は「設問 1、2、7～17 の平均値」、授業の成果分野は「設問 3、5 の平均値」、総合評価「設問 18 の数値」とした。

・実験・実習科目は、学生の取組分野は「設問 4、6 の平均値」、教員の取組分野は「設問 1、2、8～19 の平均値」、授業の成果は「設問 3、5、7 の平均値」、総合評価「設問 20 の数値」とした。

前期　講義・演習科目

図 3-1 学生の取組、教員の取組、授業成果、総合評価との関係（管理栄養学科）

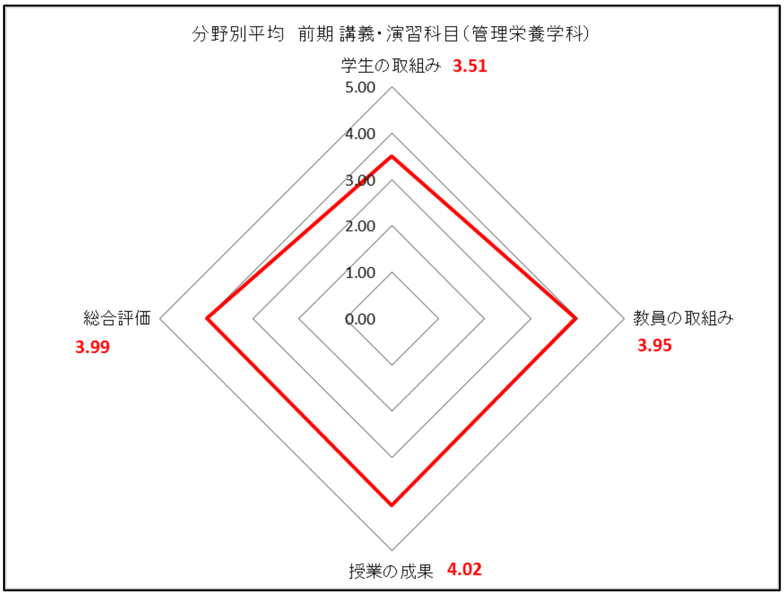
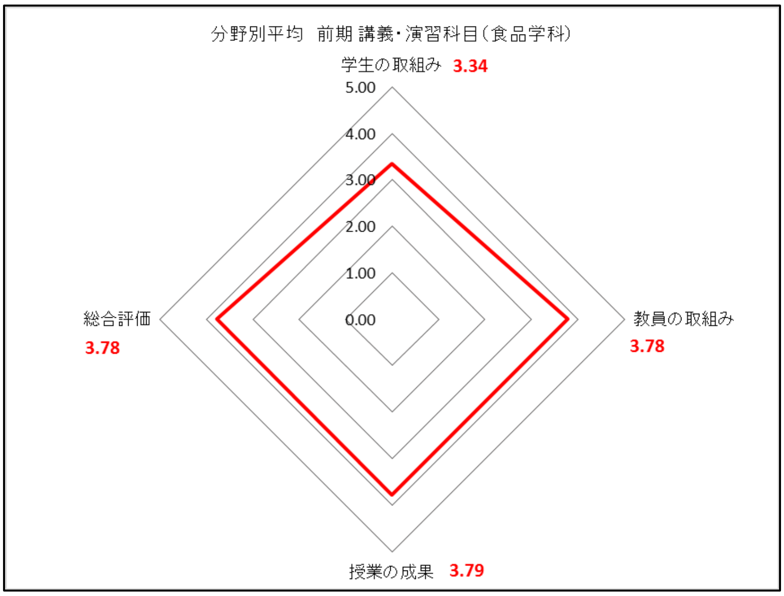


図 3-2 学生の取組、教員の取組、授業成果、総合評価との関係（食品学科）



前期　実験・実習科目

図 3-3 学生の取組、教員の取組、授業成果、総合評価との関係（管理栄養学科）

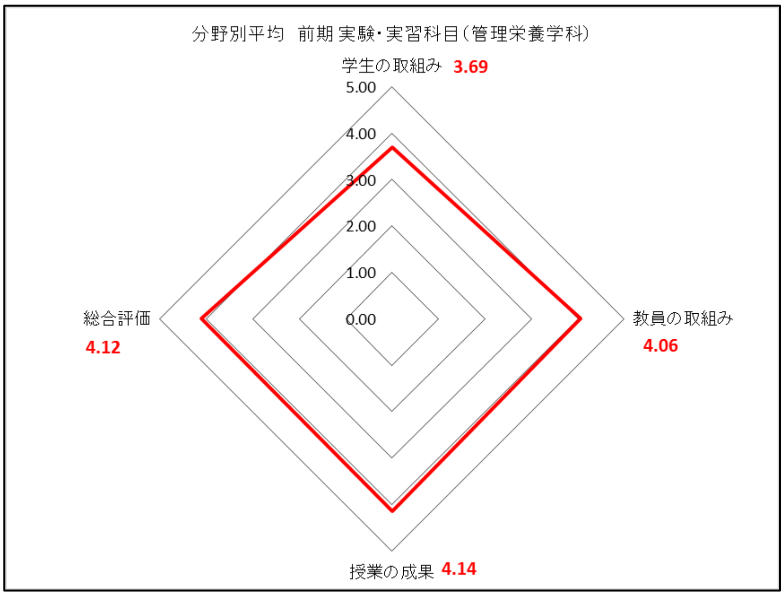
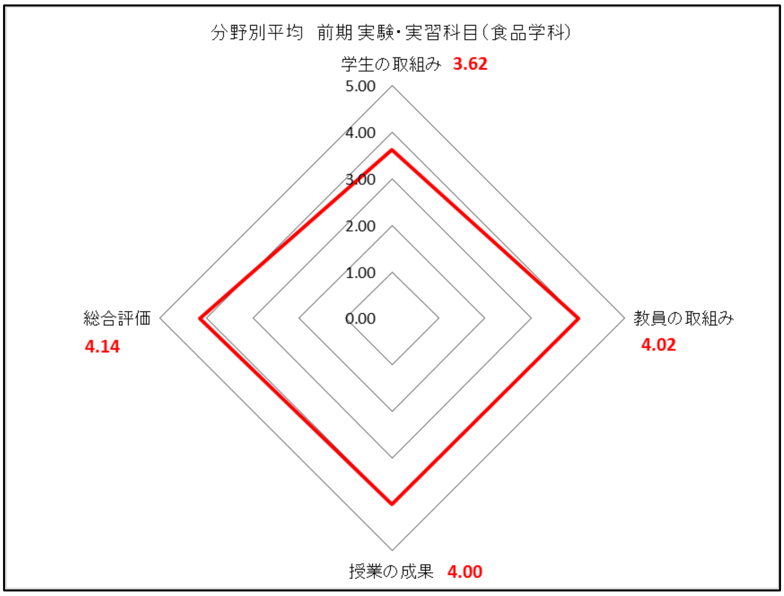


図 3-4 学生の取組、教員の取組、授業成果、総合評価との関係（食品学科）



後期　講義・演習科目

図 3-5 学生の取組、教員の取組、授業成果、総合評価との関係（管理栄養学科）

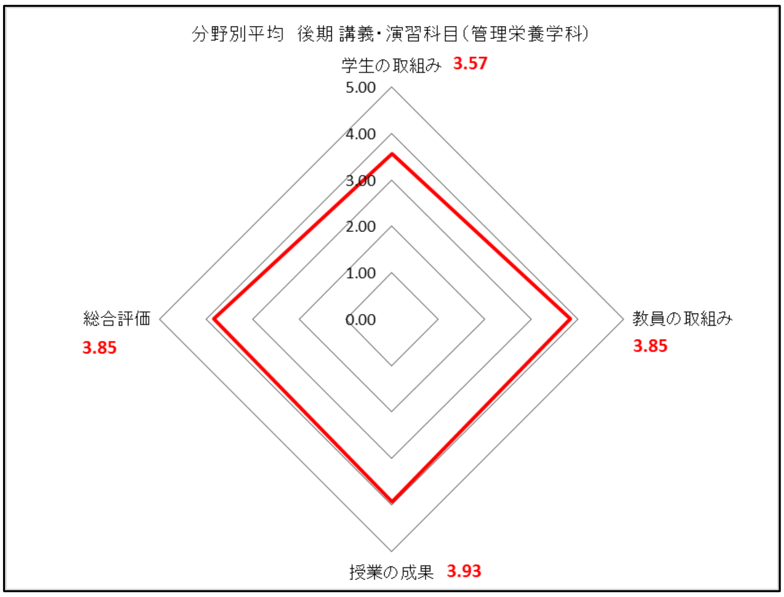
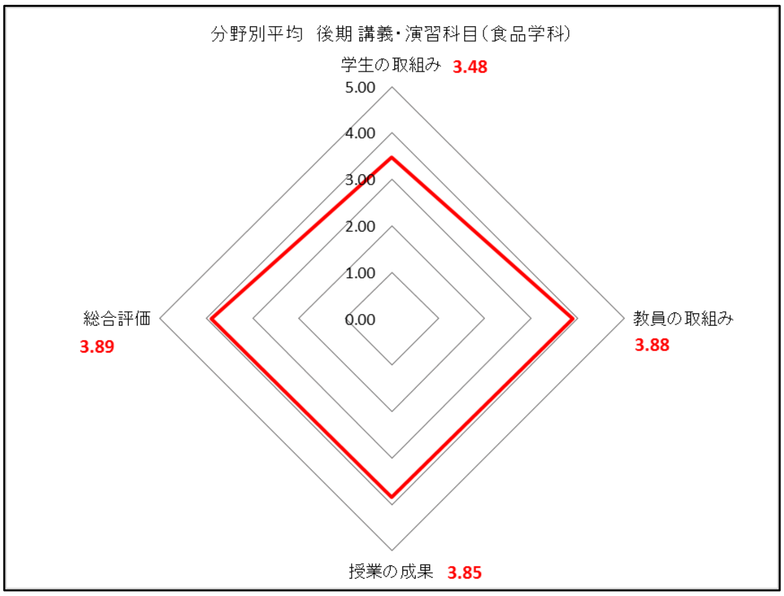


図 3-6 学生の取組、教員の取組、授業成果、総合評価との関係（食品学科）



後期　実験・実習科目

図 3-7 学生の取組、教員の取組、授業成果、総合評価との関係（管理栄養学科）

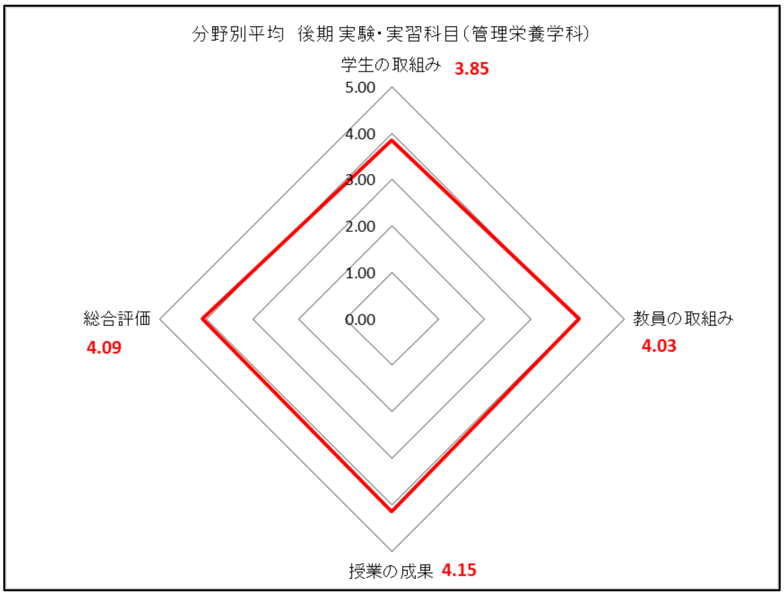
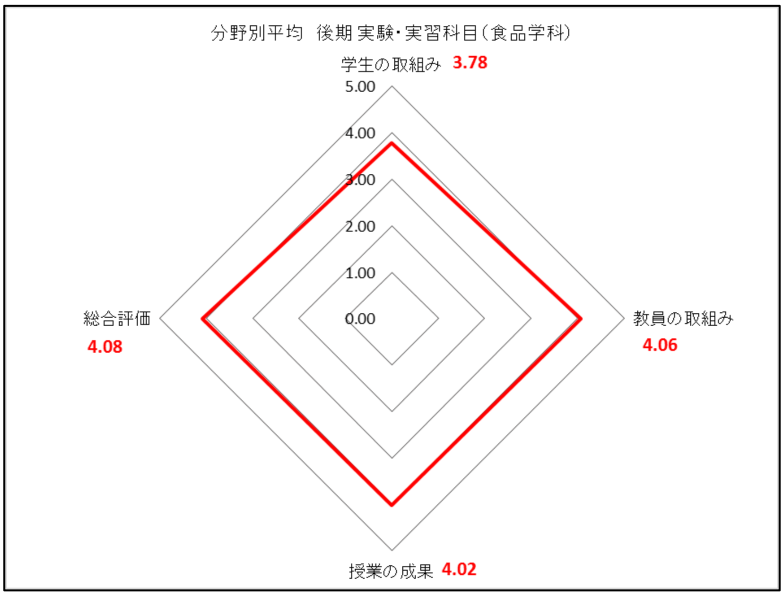


図 3-8 学生の取組、教員の取組、授業成果、総合評価との関係（食品学科）



授業評価アンケート総合評価の推移状況
2018 年度より、授業評価アンケートの設問を変更したため、推移状況については「総合評価：総合的に評価して、満足できる授業であった。」のみで表示している。

【授業評価アンケート総合評価の推移状況】

		2016 前期	2016 後期	2017 前期	2017 後期	2018 前期	2018 後期
管理栄養学科	講義・演習科目	3.94	3.85	3.94	3.88	3.99	3.85
	実験・実習科目	4.31	4.32	4.26	4.15	4.12	4.09
食品学科	講義・演習科目	3.61	3.66	3.67	3.77	3.78	3.89
	実験・実習科目	4.21	3.95	4.09	3.92	4.14	4.08